

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	高齢者初発未治療多発性骨髄腫に対する自家移植の検討
研究責任者	血液内科 部長 石田禎夫
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	多発性骨髄腫は血液細胞の一種である形質細胞が腫瘍化することで発症する難治性かつ予後不良の血液疾患です。多発性骨髄腫において自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法(自家移植)が予後を改善することが知られていますが、治療毒性も強いことが知られています。一方で多発性骨髄腫の診断年齢中央値は66歳と高齢患者が多くを占めており、患者の移植適応についてはその治療毒性や治療成績を含めて十分に検討することが必要です。そこで、今回我々は当院で自家移植を受けた多発性骨髄腫の患者さんのうち、高齢の患者さんを対象として解析を行い、自家移植の治療成績を検討することに致しました。これらのデータから、高齢多発性骨髄腫の患者さんに対する自家移植の有用性について明らかにし、今後の骨髄腫患者の治療方針決定に役立てていくことが本研究の目標です。
研究方法	○対象 2010年6月から2022年8月の期間に当院で自家移植を行った多発性骨髄腫の患者さんのうち、移植時点で65歳以上の方 ○方法 診療録(カルテ)を用いて、年齢、性別などの基本情報と、多発性骨髄腫に対する化学療法と移植前処置、及び移植の効果などに関するデータを収集します。収集されたデータを元にして下記の評価項目について検討します。 ○評価方法 全生存期間(overall survival:OS) 無増悪生存期間(roggression-Free Survival:PFS) 治療による合併症(感染症など) ※倫理的配慮について 個人情報の保護については十分に配慮して解析を行います。 対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方はお手数ですが下記までご連絡下さい。本研究へご協力頂けない場合でも、今後の診療において不利益を被ることはございません。
問い合わせ先	日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者:小倉 瑞生 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604